

やじろべえ

発行日 2026年(令和8年)4月
発行 中原区地域教育会議
編集 広報委員会
事務局 川崎市中原市民館内
川崎市中原区新丸子東3-1100-12
電話 044-433-7773 FAX 044-430-0132

第31回中原区子ども会議

テーマ:「ルールについて考えてみよう」

2026年1月18日(日)中原市民館 多目的ホール

〈参加人数〉子ども20人(小15人・中4人・高1人)

大人34人:合計54人



私たちの周りにはたくさんのルールがあります。ルールって何だろう?大切なルールと不思議なルールなど改めてみんなで考えてみようという企画で話し合いました。

中原区の子ども会議は、子ども会議子ども実行委員会『たんぼぼちゃ』の子たちが企画をし、当日の進行も務めています。また、「子どもたちだけで話し合うこと」を大切にしている分科会が始まる時は、大人はホールから出て大人分科会に向うのが恒例です。

■当日の様子

たんぼぼちゃの子どもたちの司会進行で会が進み、



開会式の様子

初めて子ども会議のメンバーとして参加する小学生も、それぞれ担当した部分をみんなの前で説明することができました。まずは、みんなの緊張をほぐすアイスブレイキングから。今年は大人が近くにいた事もあり自然に一緒に



ゾンビオニ

オニごっこが始まり、会場全体で楽しむことができました。ゲームはとても盛り上がり、心と体を温めて、分科会の話し合いに入ることができました。

子どもたちは3つの班に分れ、ご縁で見学に来た筑波大学と信州大学の大学生・大学院生とサポーターで大学生グループを作り、4分科会で話し合いをしました。

■各分科会で出た意見

子どもだけで話したあと、地域の方々との意見交流の時間があります。大人に質問をして意見交換をすることで、子どもたち自身の考えをまとめるためです。

今年は子ども分科会に入る地域の方の人数を減らし、子どもがより主体的に大人と意見を交わせる環境づくりをしました。

意見交流の場で聞くことができた「子どもたちの声」の一部をご紹介します。



分科会の様子



- 他のクラスに入ってはいけないルール
そのルールがあるので、友だちと話せないし用事があっても行けない/どうして行ってもいけないのかよく分からない→理由があるみたいだけど...やっぱり友だちと話したいし遊びたい。
- 学校でのメイク何でだめ?
コンプレックスを隠したい/かわいい顔で気持ちをあげて学校に行きたい/暗い顔で行くより明るい顔で学校に行きたい。
- あだ名禁止のルールについて
名前だと親しみがわからない/本人が嫌なのはもちろんダメ!→「本人が嫌なあだ名では呼ばない」というルールにすればいいのでは?

■大人に言いたい

意見を言ってもいいよと言われるけど...

- 言うと反抗していると受け取られてしまう。
生徒の意見を聞いてくれないと感じる。
先生にそれがどう思われるんだろう、怒られてしまうかも感じる。意見を言いたいけど言えないでいる、言いやすい雰囲気を作ってほしい。
- 早朝に道ばたに酔って寝ている人がいたり吐いたあとがあつたり、あれは本当にやめてほしい。
- 犬のフンを残していく人がいて、えー!と思う。
- 喫煙所、上が空いていて臭いので意味がない。
- ニヶ領用水にタバコ・ごみのポイ捨てイヤ。

■沖本里恵区長あいさつ

子どもたちの素直でまっすぐな意見を聞くことができ、とても有意義で楽しい時間だったと同時に、大人として改めて深く考えさせられる場となりました。ルールについて「何となく必要」と思いながらも、「なぜこのルールが必要なのか」「ルールを変更できるのか」などはあまり気にしていなかったかもしれませんが、そのことについて、ここに集まっている皆さんでこうやって話すことはとても大事なことだと思います。話し合いでは、命を守るためのルールや、誰かを嫌な気持ちにさせないための思いやりが大切だという共通認識がうまれていました。

学校のルールづくりについても先生や保護者の方々と話し合いながら、あきらめずに納得できる形を探していってほしいと思います。

■高校生の感想

小学生の分科会で多かった意見として「シャーペンの使用禁止」や「公園でサッカーができない」など、中学生からは、校則に関する「スマホの使用禁止」「髪染め」などがありました。全体的になぜあるのかははっきりしないルールも多く、今回個々のモラルを守る精神を持つことの重要性にも改めて気づかされ、ル

ールとして禁止・明記されていないものでも、それが良くない行動であればするべきではないと考えました。また、ルールそのものが守らなければならないものから守らなくてもいいような存在へと形骸化してしまっているとも感じ、ルールそのものの存在意義についても考えさせられる機会となりました。

■大学生サポーターの感想

多くのルールにおいて「子どもはダメだが、大人は問題ない」という状況に気づきました。その背景には、大人が子どもに対してルールの意味や理由を十分に説明できていないという課題が見えてきました。そこで私たちは、まず大人自身が当たり前のことを当たり前に行う姿を見せること、そしてただ規則で縛るのではなく、意味のあるルールを設定し、その理由を丁寧に伝えていくことが大切なのではないか、という結論に至りました。今回、初めて大学生の分科会を行ってみて、子どもと大人の間に立つ立場だからこそ、考えられることがあると感じました。

中原区子ども会議は子どもたちの意思表示の場として毎年開催されています。

来年もたくさんの皆さんの参加をお待ちしています♪

第37回教育を語るつどい 第55回保護者と教職員のつどい

私の子育てこれでいいのかなあ～？

地域と歩む子育て
～つながりが未来を守る～

2026年2月7日(土)中原市民館 多目的ホール

講師 松居和先生(元埼玉県教育委員会委員長 音楽家)

<参加人数> 91人(会場64人 ZOOM34人)



実行委員メンバー 松居先生を囲んで

■玉川中学校区地域教育会議より活動報告

「できることを、できる人が、できる時に」をモットーに、無理をせずコンパクトな運営を心がけています。子ども会議は玉川中生徒会メンバーが企画し、オンラインで開催。地域の夏祭りを毎年開催、私立中へ進学率が高く地域や学校の枠を超えて気兼ねなく集まれ、大人になってもあの場所で会えるふるさとをという思いのもと青年会や子ども会、PTAが主催していた行事に共催として参加。子どもたちがやりたいと思うことを大人は手を貸さずに見守る、力が必要な作業は保護者または中学生の手を借りる。こういった関わりにより、中学生や大人が学校のどこに町内会や学校の防災用具があることを知ることができ、防災力の向上にもつながっています。

■中原区子ども会議より報告

(詳細は1～2ページをご参照願います)

■松居和氏 講演会の要約



講演を始めて35年、音楽家として活動してこられたアメリカで子どもを取りまく環境を見てきたことがきっかけとなり、全国で講演活動をされています。

子育ては夫婦揃っていても大変。おじいちゃんおばあちゃん、隣のおじちゃんやおばちゃん等、大人が子を見守り、命に感謝するのが子育てと話します。

この世に生を受けた子どもが0～2歳の間に親が愛情をもってただ可愛いと接することで、子どもの情緒が育ち、子どもたちと過ごすことで自分の中にある良い人間性に気づききっかけとなります。結婚して子どもが生まれ、子育てに費やす日々は自分の時間が少なくなったり、これで大丈夫なのかと心細くなったりすることもあります。親の心が揺らいで良いこと、その中で夫婦同士、近所同士を頼りにしあい、信じあい、助けあうことで自分自身を深く理解することにつながると述べられました。

共働き家庭が多い昨今、子どもと過ごす時間が短い中、今一度、子どもと向き合うことの大切さ、自信なんてなくてよい、揺らぎながら日々頑張る親御さんにエールを送りたくする講演をいただきました。参加された方の中に「私の子育ては間違えていなかった」という意見も聞かれ、地域の方とともに学び、想いを共有できる時間となりました。

以下、印象に残った内容を一部紹介します。

☆泣き止んでほしいと思うと止まない

生後2～3か月の赤ちゃんが泣く、おむつを替えたり、授乳しても泣き止まない、だっこし揺すると泣き止むが、1分以内に泣き止む方法があるか徹底的に研究、泣き止んでほしいと思うと泣き止まないことに気づき、ある一つの風景に集中してあやすと1分位で泣きやむようになりました。

☆幸せの物差し

砂場で遊ぶ乳幼児を見てください、あの子どもたちほど幸せそうな子はいないと感じます。「砂」で幸せになれています。幸せはつかみ取る、勝ち取るものでも、なし遂げるものでもない、物差しの持ち方次第ですね。

☆保育園長の想い

「保育はおばあちゃん心で ただただ可愛がる。それだけのことです」と言われました。

預けておけば大丈夫と親に思わせたら良くない。どんなに園の保育が良くても親に勝る人はいません。

☆子どもの初めては親に

2歳から預かると、初めて歩けるようになる瞬間に立ち合います。その際、園長が担任に「もうすぐ歩けるようになりますね」と伝えるように言います。わが子が初めて歩けるようになる瞬間を親が見ていないことを許したら、私たちのやっている仕事は親子の不幸に手を貸すことになるから」と。初めての瞬間を親達に返していくことが大切になります。

☆一日保育士体験

17年前に埼玉の園長たちが結成した「親心を育む会」では、親が親らしくなるために「1日8時間の保育士体験」を実施したそうです。

当初は抵抗感を示す親もいましたが、実際に我が

子や他の園児と深く関わる中で、父親が我が子からの“ありがとう”という言葉に号泣するなど、親自身が自らの人間性に気づき感動する場面が生まれました。この様な体験を重ねることで、親は自分の子だけでなく他者への責任感も抱くようになります。こうした親同士や子ども、保育者との信頼のネットワークを築くことが、いじめや不登校を防ぐ力になると信じています。

☆小中高生を対象に一日保育士体験

ある園では夏休みを利用して3日間の保育士体験を実施しました。小学生の子が感想に「どうして良いかわからなくて、黙ってそこに立っていた。そうしたら小さい男の子が近づいてきて「遊ぶか」と言ってくれたのがとても嬉しかった。」と書かれていました。園児にとって保育園は遊ぶところ。園児と話することにより、私利私欲、駆け引きや裏表のない人間関係を周りに数人持てば幸せを感じるということがわかります。幼児と会話することによって、言葉の意味よりも、伝えてくれた人の心持ちと交流しているように思います。

小学高学年の子も感想に、「おんぶして、抱っこしてと言われ本当に疲れたけど、僕も昔はこうだったことがあったと思った」とありました。私たち全員、3歳だったことがあり、おんぶしてくれた人、抱っこしてくれた人がいて、優しい人の想い、誰かがいたから生きてこれたということに気付いてほしいのです。



会場の様子

■閉会の言葉 中原市民館 土戸啓章 館長



非常に印象に残るワードが多かったと感じる一方で、私自身、子どもがいないのですが、仮に子どもを授かった時、いつから保育園に預けようか、どこの園にお願いしようか話し合いになると思います。講演を聞いた中で、子どもの泣き声、ママがいいという叫びを聞いた時に保育園に預けることができるのかと、考えさせられる機会となりました。本日は小さな来場者何人かいますが、私は普段ここ市民館で働いています。親子関係を築く手伝いができる講座、キッズスペースの活性化を引き続き取り組んでまいります。

住吉中学校区地域教育会議 講演会

テーマ：みんなで考えてみよう！

『子どもの権利と地域活動』

講師：かわさき子どもの権利フォーラム

顧問 山田雅太氏 / 事務局 圓谷雪絵氏

子どもの権利条例
川崎市 HP より

2025年11月29日(土)午前10時より、川崎市立荻宿小学校の特別活動室にて、地域教育会議の委員、地域住民、教職員を含む25名が参加し、講演会が開催されました。顧問の山田氏から、「川崎市子どもの権利に関する条例」が作られた経緯と条例制定後についてのお話がありました。

事務局の圓谷氏は、ご自身が中学2年生時に川崎市教育委員会が実施していた「子ども夢共和国」に参加したことがきっかけで、子どもの立場から川崎市子どもの権利条例の制定に関わりました。家庭や学校、子どもの遊び場・川崎市子ども夢パークなどの地域の子どもの居場所などで活かせることは何か

など制度から取り組みまでのお話をされました。この条例は、子どもを一人の人間として尊重し、自分らしく生きていくことを支えるための、市と市民の約束であり、子どもも大人も等しく理解して欲しいとの内容でした。

講演中、スライドで子どもたちの学んでいる様子を紹介しながら、一人ひとりが違いを認め合い、違いが豊かさとして響き合う「共に生きる」地域社会を作り上げていく力を育んでいきたいと思います。参加者は実際に条例に関わった山田氏と圓谷氏の経験や思いを直接聞くことができた貴重な機会となりました。

中原区地域教育会議

「(第15期)住民委員」を募集します！！

中原区地域教育会議では、子どもたちの健やかな成長と、地域全体の学びを支える活動を一緒に進めていただける委員を募集しています。

地域教育会議は、地域住民・保護者・学校・行政が協力し、「子どもが安心して育ち、おともも学び続けられるまち」をつくるための組織です。中原区では、行政や地域団体と連携しながら、子ども支援、地域行事、学習活動の企画など、さまざまな取り組みを行っています。

対象：区内在住、在勤の方【2026年(令和8年)4月1日現在】

募集人数 若干名 / 任期 2026年5月1日～2028年4月30日の2年間

応募方法 応募用紙に必要事項を記載の上、FAX メールで受付

締切 2026年4月30日(木)

問い合わせ：中原区地域教育会議事務局(中原市民館内)

詳しくは市民館HP 公共機関で配布のチラシをご参照ください。

2026年度 定期総会 2026年5月28日(木)18時30分～

中原市民館 視聴覚室で開催(委員の皆様には改めてご案内いたします)

《編集後記》

一年間、広報紙をご覧いただきありがとうございました。地域の皆さんの温かい協力に支えられ、活動の様子をお届けすることができました。子どもたちの成長や地域のつながりを感じる場面が多く、心

に残る一年でした。5月から第15期に入ります。これからも地域教育会議の取り組みを丁寧に発信して参ります。引き続き、温かい応援をお願いいたします。